

「農地を貸したいが、一たん貸したら返してもらえないのでは……離作料が心配で……」「規模を拡大したいが資金がない。採算がとれないのでは……」——こんな心配・悩みをお持ちの方はいませんか？

# 農地を貸したい人のために 気軽に借りたい

安心して利用できます

## 農用地利用 増進事業

### 制度のしくみ



安心して貸せるなら農地を貸してもよい、また、農地を借りたいという農家にぜひ知っていただきたいのが、この「農用地利用増進事業」です。

これは、町（農業委員会）が、貸し手・借り手の「仲人」となって、短期間の賃貸借や売買などを安心して行えるようにする制度です。

### 制度の特徴

- 農地の貸し借りには、農地法の許可はいりません。
- 貸借期限が来れば、離作料の心配なく確実に返還されます。
- 貸借期間を延長することもできます。
- 貸し手には、期間に応じて奨励金が出ます。（左表）

貸付期間	奨励金
3年以上6年未満	一万円
6年以上10年未満	二万円
10年以上	三万円

(10アール当たり)

↓この制度を利用したい方は、お気軽に地区推進員または農業委員会（役場産業振興課内）へご相談ください。

### 地区推進員は30人

（敬称略）

【大総地区】  
佐久間明・永藤尚己・綿貫栄作・寺田繁・吉川儀・土屋忠夫・怒賀克躬・行方甲夫・行方祐雄

【横芝地区】  
大木藤樹・越川六郎・大木和雄・藤井秀一・斉藤秀男・

杉浦幸太郎・市原利一・印東巖・市原宗一・越川武彦

【上塚地区】  
海保寿広・浅野昇次・浅野喜代司・小高謙次・秋山清見・伊東勤・鈴木栄・川島信二・川島忠敏・平山丈一・斉藤重宏

### 普及所コーナー

## 家畜ふん尿の 上手な使い方

地力増強を図るうえで、家畜のふん尿は大きな威力を発揮します。特性を理解して、積極的に利用しましょう。

### 家畜ふん尿の特性

家畜のふん尿は有機物が多く、土壌改良及び元肥用に適します。尿は有機物が少ないものの、速効性があります。

家畜別にみると、鶏ふんは肥料成分が最も高く、早く分解し、大きな肥料効果があります。牛ふんは繊維質が多く、土壌改良効果があります。豚ふんは、これらの中間的なものです。

### ふん尿施用の留意点

生のふん尿は、ほ場に施用すると急激に分解し、作物への障害が生じやすくなります。牛ふんの場合、雑草種子が発生しやすいので、十分に腐熟発酵したものを使しましょう。

乾燥ふんも急激に分解します。は種や移植の少なくとも2週間前に施用し、少しずらした位置に、は種・移植をしましょう。特にトンネル、ハウス栽培では、十分に発酵したものを利用することが大切です。

### 家畜ふん尿の施用量

施用には、適正施用（作物の生育を考慮して、過剰にならないやり方）と、限界施用（ふん尿処理に重点を置いて、作物に悪影響を与えない限り多量に施用する方法）とがあり、それぞれの施用量は表のとおりです。

### 主な野菜への ふん尿施用量

(トン/10a)

作物名	適正施用量			限界施用量		
	牛ふん	豚ふん	鶏ふん			
	生	乾燥	生	乾燥		
とうもろこし	7.5	2.73	4.2	1.71	0.69	生豚ふん20トン
はくさい	3.5	1.3	2.0	0.8	0.32	生鶏ふん4トン 豚ふん尿20~30トン
にんじん	2.5	0.91	1.4	0.57	0.23	乾燥豚ふん1~1.5トン 豚ふん尿20~30トン
さといも	2.5	0.91	1.4	0.57	0.23	乾燥豚ふん1.5~2トン 豚ふん尿30~40トン
ばれいしょ	2.0	0.93	1.1	0.46	0.18	生豚ふん20~30トン 豚ふん尿40トン